

第7回 全国ユース環境活動発表大会

令和4年1月21日(金)～1月31日(月)、

「第7回全国ユース環境活動発表大会 全国大会」が開催されました。

2月8日(火)、表彰式が開催され、山口壯環境大臣よりご挨拶をいただきました。

ご挨拶

環境大臣

山口 壯



皆様こんにちは。環境大臣の山口壯です。

第7回全国ユース環境活動発表大会表彰式の開催にあたり、一言、御挨拶申し上げます。

本大会は、持続可能な社会の実現に向けた、環境活動を行うユース世代の皆さんに対し、交流や発表の機会を設けるとともに、優れた取組を表彰することにより、皆さんの活動を応援することを目的に、環境省、独立行政法人環境再生保全機構、国連大学の共催により開催しています。

本年は、全国から90校の応募があり、8地区の地方大会を経て選抜された16校が全国大会に出場されました。いずれの活動も様々な環境課題の解決に、粘り強く取り組んでおられるとともにユースならではの発想を持った活動でした。みなさんの一生懸命な活動の様子に私も深く感じ入った次第です。

特に、新型コロナウイルス感染症の影響で、授業のオンライン化や学校行事の制約など、みなさんの学校生活にも様々な制約があった中、仲間と知恵を絞り、試行錯誤を繰り返しながら、環境活動に力一杯取り組まれました皆様に、心からの敬意を表したいと思います。そして、その活動を様々な形で御支援くださった、先生、地域の皆様、関係者、保護者の皆様に、この場を借りて、厚く御礼申し上げます。

さて、昨今、豪雨や猛暑といった異常気象など、気候変動の影響が既に現れつつあります。この「気候危機」とも言うべき状況を受け、昨年グラスゴーで開催され私も参加したCOP26では、日本の貢献もあり、気温上昇を1.5度に抑えるために、世界各国が温室効果ガスを迅速、大幅かつ持続的に削減することが合意されたところです。この合意の実現のためには、2030年までが人類の正念場、勝負の時です。

環境省では、特に地域の取組に着目し、先月から2030年までに先行して脱炭素を実現する「脱炭素先行地域」の募集を開始したところです。また、我が国のCO₂の排出の6割が私たちの生活、即ち衣食住に関連しており、一人一人が自分事として、その暮らし方も変えていくことが重要です。

このような脱炭素社会の実現、SDGsの達成に向けた、未来の社会をつくるのは「人」であり、特に、今後の気候変動の影響を最も受ける一方で、2050年カーボンニュートラル実現の主役となるのがユース世代の皆さんです。私も、グラスゴーで、現地に来て気候変動対策を強く訴える高校生にもお会いし、その熱い思いに心動かされました。本大会に出場された皆さんが、全国の同世代の牽引役として、今後、避けて通れない持続可能な社会づくりの担い手として、社会で活躍していくことを大いに期待しています。

最後になりましたが、高校生の皆様、そして生徒に寄り添い、活動を支えて下さっている先生方・保護者の皆様、高校生を応援し御指導いただいた地域の皆様に感謝するとともに、御健康と御多幸を祈念いたしまして、私の御挨拶とさせていただきます。

